

評価結果公表票

作成日 平成21年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0272100959
法人名	有限会社 三英会
事業所名	グループホーム にこにこ
所在地	青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字北浮田町字平野206番地4 (電話)0173-82-1122
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年7月22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 9.2人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	理美容代 1,500 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	10 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	63 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鰺ヶ沢町立病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は経験豊富な看護師であり、利用者に対する日常的な健康管理やホームの協力医療機関との調整を行なっているほか、職員がより良いケアを行なえるように指導、助言を行い、職員ともコミュニケーションが取れている。
 契約時はホームの資料や重要事項説明書など、十分に時間をかけ説明し、利用者や家族の同意を得ている。契約改訂時にも、その都度説明している。在宅復帰等の退居時には退居後の生活方法など情報提供を行っている。
 西北のグループホーム協会に加入し、2ヶ月に1回、町内6箇所のグループホームと交流しているほか、研修会やホーム見学などを通して、お互いの活動を共有し、日々のサービスの向上や職員の育成に取り組んでいる。
 介護計画の実施期間を明示しており、3ヶ月毎に見直しを行っている。利用者の状態などに変化がある時には、随時見直しを行なっている。日々の関わりの中から利用者や家族の意向に変化がないか観察し、見直しを行なう際には、再アセスメントをおこなっている。
 ホールは広い空間で、楕円形のテーブルが置かれ、椅子やソファなどのスペースが確保されているほか、玄関や廊下には季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気となっている。日射しはブラインドやカーテンで調節し、職員の立てる物音やテレビの音量は適切である。

【特に改善が求められる点】

年間の研修計画を作成し、職員個々の力量に応じた研修を受講することに期待したい。
 やむを得ず拘束を行なう場合は、理由等を説明し家族の同意を得る体制を整えることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は全職員に周知し、会議等で改善策を話し合い、運営理念の見直し、夜間の避難訓練や自動ドアの取り付けに関する家族等の同意、無断外出時に備えた地域への協力依頼など、改善に向けて取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や職員は評価の意義を理解しており、評価を通して自分達が行なっているケアを見直す機会と捉えている。自己評価は、職員一人ひとりの気づきを全員で話し合い、管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは家族、地域包括支援センター職員、町職員、ホーム職員等で構成され、3ヶ月に1回開催している。会議ではホームの日々の取り組みや自己評価、外部評価の結果を報告し、メンバーからの意見や助言を得ており、今後のケアの向上に繋げている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月利用料の支払いを兼ねた面会時に、日々の暮らしぶりや健康面、受診状況等を報告している。小遣い等の金銭管理状況は個人ごとの出納帳に記録し、領収書を添えて定期的に報告している。サービス提供体制の変化に関しても面会時に報告している。</p> <p>面会時に声がけしたり、意見箱を設置するなど、家族が意見や要望を出しやすい雰囲気作りを行っている。家族から意見や苦情が出された際には、全職員で検討しサービス改善に繋げている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣へパンフレットを配布したり散歩時に積極的に挨拶等を行い、地域住民との交流を図るなど、ホームからの働きかけを行なっている。</p> <p>また、地域の方が気軽に子供を連れて遊びにきたり、収穫したばかりの野菜を持って来てくれるなどの関係が築かれている。</p> <p>ホームヘルパーの実習生やボランティアの受け入れを行っており、ホームの持つ専門性を地域に還元している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者、職員は地域密着型サービスの役割を理解し、全職員の話し合いのもと、これまでの理念を見直し、地域との関わりを考えながら地域密着を盛り込んだ理念を掲げている。</p> <p>利用者の影響を考慮し、ユニット毎の異動は最小限にしている。新しい職員の配置に関しては利用者十分に説明し、3ヶ月程度マンツーマンでケアを行い、利用者との馴染めるように配慮している。</p> <p>西北のグループホーム協会に加入し、2ヶ月に1回、町内6箇所のグループホームと交流しているほか、研修会やホーム見学などを通して、お互いの活動を共有し、日々のサービスの向上や職員の育成に取り組んでいる。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族にホームの見学を勧めたり、遊びに来てもらうなど、ホームの雰囲気を感じてもらいながら話し合いの機会を多く持ち、納得の上でサービス開始ができるように支援している。</p> <p>職員は利用者から調理法や野菜作りなどを教わったり、食事の準備や後片付けなどを一緒に行なうことで、利用者一人ひとりの気持ちを理解し、助け合って生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>管理者が看護師で、医療連携体制を整えており、利用者に対して、日常的な健康管理が行われている。また、公用車を使い、通院時の送迎や買い物への同行を行なっているほか、家族が宿泊する際の布団の貸し出し等を行なっている。</p> <p>重度化や終末期のケアに対する指針が定められており、重度化した場合や終末期の対応について利用者、家族と十分に話し合いを行っている。又、状況の変化時も随時話し合いを行い協力医療機関とも連携がとれ、早期からの意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動を否定することなく、月1回の会議時に利用者の羞恥心やプライバシーについての話し合いを行っており、管理者の指導により、日々のケア時に活かされている。また、利用者の情報の記録等は外部の人の目の触れない事務室内に保管されている。</p> <p>概ねホームの生活時間の流れに沿って過ごしているが、入浴時間や食事時間、散歩など一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。又、利用者の言動を急かさずゆったりと対応している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員は地域密着型サービスの役割を理解し、全職員の話し合いのもと、これまでの理念を見直し地域との関わりを考えながら、地域密着を盛り込んだ理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りや月1回の職員会議などで理念の共有を図っているほか、ホーム内に理念を掲示し、職員一人ひとりが理念を意識し、日々のケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣へパンフレットを配布したり散歩時に積極的に挨拶等を行い、住民との交流を図るなど、ホームからの働きかけを行なっている。また、地域の方が気軽に子供を連れて遊びにきたり、収穫したばかりの野菜を持って来てくれるなどの関係が築かれている。ホームヘルパーの実習生やボランティアの受け入れを行っており、ホームの持つ専門性を地域に還元しているほか、外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに十分に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を理解しており、評価を通して自分達が行なっているケアを見直す機会と捉えている。自己評価は、職員一人ひとりの気づきを全員で話し合い、管理者がまとめている。外部評価の結果は職員会議で話し合い、できるところから改善に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは家族、地域包括支援センター職員、役所職員、ホーム職員等で構成され、3ヶ月に1回開催している。会議ではホームの日々の取り組みや自己評価、外部評価の結果を報告し、メンバーからの意見や助言を得ており、今後のケアの向上に繋げている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年4回ホーム便りを配布している。また、行政担当者が運営推進会議のメンバーとなっており、会議等を通じてホームの取り組みなどの共有を図り、相談できる体制である。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修に参加し、その後の伝達研修を通して地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めている。必要に応じて、制度利用に向けた支援を行なう体制が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は外部研修に参加したり、職員会議を通して高齢者虐待に関しての理解を深めると共に、管理者の日々の指導により虐待のないケアに取り組んでいる。虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等についてマニュアルを作成しており、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はホームの資料や重要事項説明書など、十分に時間をかけ説明し、利用者や家族の同意を得ている。契約改訂時にも、その都度利用者や家族に説明している。在宅復帰等の退居時には退居後の生活方法など情報提供を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料の支払いを兼ねた面会時に、日々の暮らしぶりや健康面や受信状況等を報告している。小遣い等の金銭管理状況は個人ごとの出納帳に記録し、領収書を添えて定期的に報告している。職員の異動などサービス提供体制の変化に関しても面会時に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声がけしたり、ホーム内に意見箱を設置し、家族が意見や要望を出しやすい雰囲気作りを行っている。また、事業所内や外部の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示しているほか、ホームの玄関にも掲示している。家族から意見や苦情が出された際には、全職員で検討しサービス改善に繋げている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の影響を考慮し、ユニット毎の異動は最小限度にしている。新しい職員の配置に関しては利用者十分に説明し、3ヶ月程度マンツーマンでケアを行い、利用者馴染めるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の資格取得に協力的で、日々のケアに支障を来さないように勤務体制に配慮している。又、職員の困り事や悩み事について管理者がスーパーバイザーとして助言している。外部研修や研修後の伝達研修、内部研修は必要に応じて行なっているが年間の研修計画の作成までに至っていない。	○	年間の研修計画を作成し職員個々の力量に応じた研修を受講することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西北のグループホーム協会に加入し、2ヶ月に1回、町内6箇所のグループホームと交流しているほか、研修会やホーム見学などを通して、お互いの活動を共有し、日々のサービスの向上や職員の育成に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族にホームの見学を勧めたり、遊びにきてもらいホームの雰囲気を感じてもらいながら話し合いの機会を多く持ち、納得の上でサービス開始ができるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から調理法や野菜作りなどを教わったり、食事の準備や後片付けなどを一緒に行なうことで、利用者一人ひとりの気持ちを理解し、助け合って生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話や表情、行動から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な利用者については職員間で話し合ったり、必要に応じて家族や関係者より情報収集を行っている。		
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの担当者を決め、可能な限り本人の意見を取り入れているほか、家族の要望や意向を聞き、職員の気付きを話し合い、利用者一人ひとりの個別具体的な介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、3ヶ月毎に見直しを行っている。利用者の状態などに変化がある時には、随時見直しを行なっている。日々の関わりの中から利用者や家族の意向に変化がないか観察しているほか、見直しを行なう際には利用者や家族の意向を確認し、再アセスメントをおこなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者が看護師であり、医療連携体制を整えており、利用者に対して、日常的な健康管理が行われている。また、公用車を使い、通院時の送迎や買い物への同行を行なっているほか、家族が宿泊する際の布団の貸し出し等を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族と話し合い、同意の上で、24時間連絡体制が整っている。ホームの協力医療機関の受療を行っているが、利用者や家族の希望する医療機関の支援も行なっている。通院時は職員が同行し受診結果の伝達方法についても話し合い、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対する指針が定められており、また、利用者や家族と十分に話し合いを行っている。また、状況の変化時には随時話し合いを行い協力医療機関とも連携がとれ、早期からの意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の言動を否定していない。月1回の会議時に利用者の羞恥心やプライバシーについての話し合いを行うことで、日々のケアに活かされている。また、利用者の情報の記録等は外部の人の目の触れない事務室内に保管されている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ねホームの生活時間の流れに沿って過ごしているが、入浴時間や食事時間、散歩など一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。また、利用者の言動を急かさずゆったりと対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が楽しく食事が出来るように苦手な食材には代替食を取り入れているほか、一人ひとりの残食量を調べ嚥下力の低い方や低栄養、慢性疾患を抱えている方へも対応している。職員は利用者と一緒に野菜の皮むきや食事の準備などを行い、食事の際にはさりげなくサポートをしながら、同じ席に座って食事を摂り、会話を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回となっているが、温泉を引いているため、一人ひとりの要望に合わせて入浴時間を調整している。入浴時は利用者の羞恥心に配慮しながら、見守りを行い、入浴を拒否する方には時間を置いてから再度声がけするなど対応方法を工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意な事を把握しており、花壇の手入れ、新聞とり、カーテン引き、おしぼりたたみ等の生活の中の役割を担うほか、習字、貼り絵、トランプのほか、ラジオ体操やグーパー体操など、個々に応じた楽しみ事を促している。喫煙や晩酌も家族の同意を得ており、楽しみごととなっている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は利用者の希望を聞きながら散歩や買い物、外食等に出かけている。車椅子利用者の方も身体状況や移動距離に配慮し、公用車で外出しており、拒否する方には無理じいせず、その日の心身の状態を考慮しながら外出支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について会議等で理解を深めると共に、管理者の指導により拘束を行なわないケアを実践している。やむを得ず拘束を行なわなければならない場合に備えて理由等を記録する様式をマニュアル化し、全職員が理解しているが、家族の同意を得るまでには至っていない。	○	やむを得ず拘束を行なわなければならない場合は理由等を説明し家族の同意を得る体制を整えることに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが車の往来が激しい国道に面している為、家族の同意を得て、タッチ式の自動ドアを設置している。居室等の利用者が日常出入りする場所は施錠していない。また、職員は常に見守りを行っており、外出傾向を察知した時は付き添っている。無断外出に備えて地域の方の協力が得られるよう、働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中・夜間を想定した避難訓練を年2回行っており、マニュアルに沿って職員の役割分担が決められ、利用者が安全に避難できるよう取り組んでいる。また、災害時に備え、地域の方に声かけをしており、消防署等の協力が得られているほか、飲料水、食料、缶詰類、毛布、簡易トイレなどを用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は知人である栄養士が作成し、栄養バランスや摂取カロリー等に配慮している。1日の総摂取カロリーは1200～1300キロカロリー、水分摂取量は1500ccを目安とし摂取量は、その都度記録している。また、栄養摂取状況等について、栄養士から助言を得ることができる。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成し、新しい情報が入った時には職員会議の中で勉強会を設け、理解を深めるほか、必要に応じて見直しも行っている。感染症に関する最新情報はインターネットより得ており、得られた情報は家族へ周知している。インフルエンザの流行時期には家族の同意を得て予防接種を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは広い空間で、楕円形のテーブルが置かれ、椅子やソファなどのスペースが確保されているほか、玄関や廊下には季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気となっている。日射しはブラインドやカーテンで調節し、職員の立てる物音やテレビの音量は適切である。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明により、使い慣れたタンス、衣装ケース、冷蔵庫、液晶テレビなどの生活用品のほか、仏壇などが持ち込まれている。持ち込みのない方には壁に作品や花を飾るなど、職員と一緒に、過ごしやすい部屋づくりを行なっている。		

※ は、重点項目。